

不適応的な自己抑制傾向と衝動買い傾向の関係

東北学院大学教養学部人間科学科

井川ゼミ ○小宮帆夏・阿部愛・谷村彩名・舘野咲香

背景

自己抑制・対人ストレス・衝動買いに関する先行研究

- ・自己抑制とストレス (上田・窪田・橋本・宗像, 2018)
自己抑制型行動特性は、自己嫌悪感やストレスの蓄積を引き起こす→自己抑制特性が高い人は対人ストレスを蓄積させる？
- ・衝動買いとストレス (山田・池内, 2018)
ストレスと衝動買いの間には強い関係があることが知られている→対人ストレスが高い人ほど衝動買い傾向が高い？
- ・自己抑制と衝動買いの関係は？
自己抑制特性が高い人は、自分が傷つくことを気にする特徴がある(小西・重橋, 2017)
→傷つくことを気にして自己抑制する人は、対人ストレスが高まり、衝動買い傾向も高まる？

課題 自己抑制、対人ストレス、衝動買いの3者関係の検討 購買行動を規定する個人特性の影響

本研究の目的 不適応的な自己抑制が対人ストレスと衝動買いにおよぼす影響について、特性と状態に注意して検討すること

着目モデル・使用尺度・場面想定シナリオ



自己抑制【特性】

自己抑制尺度 (6項目, $\alpha=.736$)

例)自分の気持ちを抑えてしまうほうだ/思っている事を口に出せない

対人ストレスイベント尺度 (10項目, $\alpha=.859$)

例)相手が嫌な思いをしていないか気になった/知人が自分のことをどう思っているのか気になった

衝動買い尺度 (4項目, $\alpha=.814$)

例)欲しいものがあると衝動的に買ってしまうことがある/はじめは買うつもりがなかったものでも、見たら欲しくなって購入してしまうことがある

自己抑制【状態】

場面想定シナリオ 自己抑制なし/自己抑制あり

あなたは友人達と一緒にいます。そのグループでは (気を遣わず/いつも気を遣い)、(言いたいことを言える気楽な/あまり言いたい事を言えずにバランスを取るような)立ち位置にいます。(その日もあなたは友人達と会話が弾み、楽しい時間を過ごしています/その日、あなたは疲れて自宅に帰りたと思っていましたが、あなた以外のメンバーはとても楽しそうで帰れそうな空気感ではありません)。→対人ストレス尺度と場面における衝動買い行動を測定

方法

調査時期 2023年11月中旬

調査参加者 東北学院大の学生160名(男性81名,女性78名,その他1名,平均年齢19.644歳)

調査方法 Googleフォーム(シナリオを用いた場面想定法)

分析 HAD version 18(清水, 2016) →相関分析・重回帰分析

結果

自己抑制【特性】

仮説1-1 自己抑制傾向が高い人は対人ストレスも高い→支持 ($r=.415$)

仮説1-2 対人ストレスが高い人は衝動買い傾向も高い→一部支持 ($r=.283$)

仮説1-3 自己抑制傾向が高い人は衝動買い傾向も高い→不支持 ($r=.044$)

相関係数の男女差 右上:女性 左下:男性

	対人ストレス特性	自己抑制特性	衝動買い得特性
対人ストレス特性	1.000	.437 **	.007
自己抑制特性	.377 **	1.000	-.105
衝動買い特性	.283 *	-.049	1.000

仮説1-2について

- ・自己抑制特性と衝動買いの間には有意な相関がみられなかった
- ・自己抑制特性が高い人は対人ストレスが高いものの、対人ストレスと衝動買いでは男性のみで相関がみられた

男性のみ→相関がみられた

・対人ストレスが高いと、衝動買いをする

全体・女性のみ→相関がみられなかった

・対人ストレスが高いからといって、衝動買いするわけではない

自己抑制【状態】

仮説2-1 自己抑制場面においてはストレスを感じる→支持 ($r=.799$)

仮説2-2 対人ストレスが高い人は衝動買い傾向が低い→不支持 ($r=.059$)

仮説2-3 自己抑制場面においては衝動買い傾向が低い→不支持 ($r=.059$)

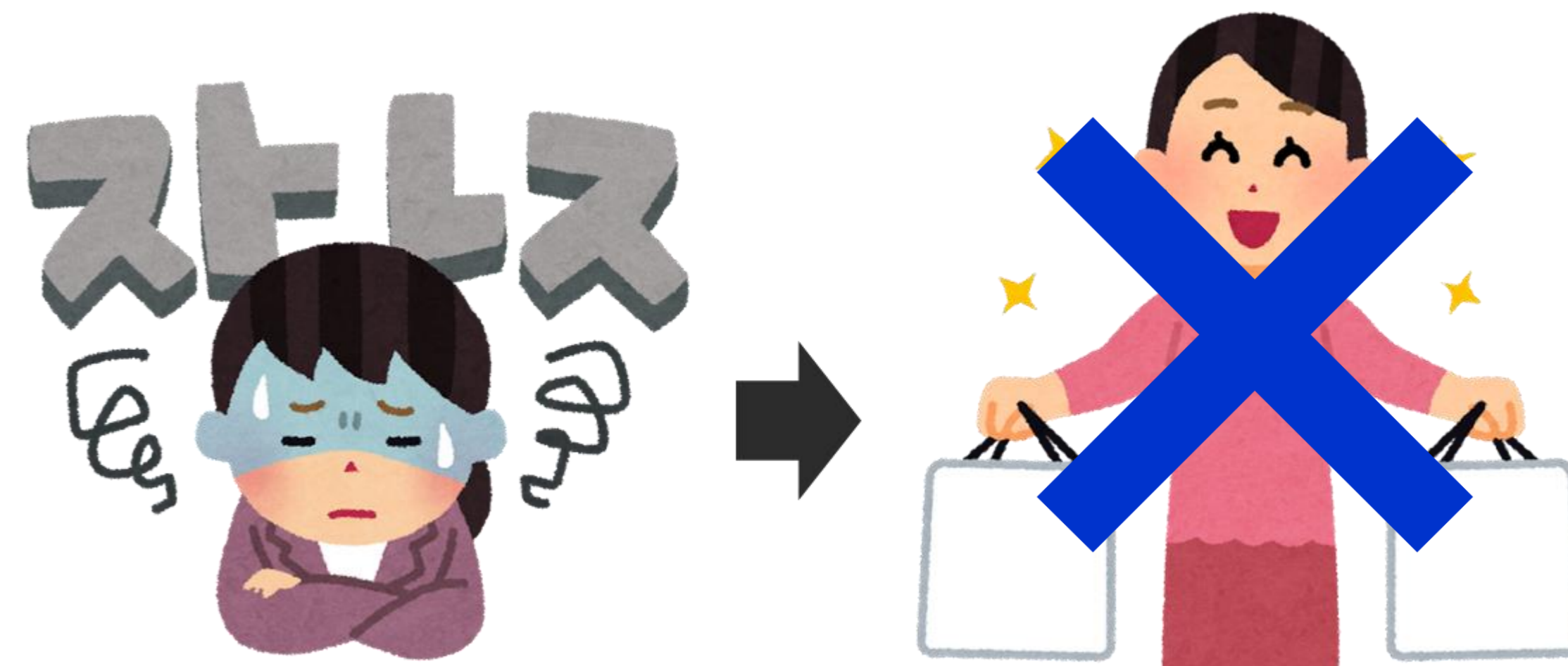
重回帰分析

変数名	ストレス程度	購入確率(%)
抑制(1=有,2=無)	.799 **	-.040
年齢	-.008	.004
性別(0=男性,1=女性)	.016	-.059
対人ストレス特性	.032	.106
自己抑制特性	.071	-.197 *
R^2	.643 **	.037

自己抑制場面において、人はストレスを感じる

仮説2-2,3について

- ・自己抑制場面においては、ストレスを感じているものの、購入確率においては有意な説明率が認められなかった



考察

一般的に、ストレスを発散するために買い物をするのは男性より女性の方が多いというイメージがある。しかし、本研究では女性よりも男性の方がストレス発散のために衝動買いをすることが明らかとなった。女性の方が対人ストレス得点及び衝動買い得点とも高かったが、相関が見られなかった。→男性は対人ストレスが高いと衝動買いをするが、女性は対人ストレスが高いからといって、衝動買いをするわけではなく、対人ストレスの処理方法に性差があるのではないかと考えられる。今後の課題として、対人ストレスと衝動買いに関する尺度の見直しや、場面設定の見直しが必要である。また、衝動買い以外のストレス対処行動にも着目して研究を進めることが期待される。